

英語塾DJ 英文法ドリル・構文編

<名詞構文>

実は、英語は名詞大好き言語です。一方、日本語は述語動詞大好き言語です。
動詞や形容詞から派生した名詞を述語らしく訳すことで、ナチュラルな和訳にすることができます。

**名詞構文：動詞派生または形容詞派生の名詞に、
意味上のS, O, C, Mがついて、SV構造のような形をしているもの。**

要するに、動詞派生・形容詞派生の名詞をVと見立てることが大切なのです。
ここでは、事実上のSとVを見つけて、ナチュラルな和訳になることを心がけてみてください。

(例)

¶ Consideration of others is the basis of good manners.
 V' O'

“consideration of others”を「他人の考慮」と和訳するのではなく、
これを名詞構文とらえて工夫して和訳することで、こなれた日本語にすることができます。

considerationをVと見立て、そしてothersを目的語と見立てて、
「他者を考慮すること」「他人を思いやること」と訳するのが、日本語訳としては良く、英語の解釈としても間違いがないです。

¶ His love of the girl became known to everyone.
 S' V' O'

これを、「彼の、その女の子の愛」などと和訳していたら、解釈が怪しくなってきます。
やはり、loveを動詞派生と見立てて、「愛すること」と訳していきます。
「彼が女の子を愛していることは、みんなに知られてしまった。」という意味です。

なお、名詞構文は無生物主語との組み合わせになることが多いです。
そのあたりも気をつけて訳出していきましょう。

問題：次の英文を和訳せよ。

上記の例にならい、構造は名詞構文を構成する名詞の範囲内だけ記すこと。

1. ¶ She is glad about her husband's safe return from the voyage.

訳：

2. ¶ The sudden appearance of the bear terrified the hikers.

訳：

3. ¶ Reporters were waiting for the arrival of the President.

訳：

4. ¶ On his sudden entrance into the meeting room, the other members fell silent.

訳：